



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース — 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

09年改定に向けて、自治体への働きかけを具体化し取り組みを強めよう!

介護報酬改定に向けて、居宅サービス8事業について審議 ④

○ 社会保障審議会介護給付費分科会 (第58回) が開催 (2008年11月14日)

【居宅療養管理指導】

厚労省より【現状について】「現在、ケアマネジャーとして従事している者のうち、看護系のケアマネジャーは 29.0%、福祉系のケアマネジャーは 52.2%と福祉系の従事者の方が多い。また、訪問看護ステーションへの利用者本院・家族からの電話相談では、身体症状に関する相談のみではなく、眠れない、話がしたい等の不安に関する相談も見られる。要介護者の約 2 割がのみ忘れによる残薬が認められており、ケアマネジャーと薬剤師の連携が十分にとれていない現状が伺える」等の説明を受けました。

【報酬・基準に関する具体的な論点】として、「(1) 生活環境や身体状況の変化が見られた時やそのような場合が想定されるケースについて、看護職員が、ケアマネジャーや医師と協働し、居宅における療養上の支援を行う仕組みを検討してはどうか」、「(2) 薬剤師による居宅療養管理指導について、他職種との連携をさらに進める観点及び診療報酬との整合性を図る観点から見直しを検討してはどうか」、「(3) 居宅系施設に入所している要介護 (要支援) 者に対する居宅療養管理指導について、移動等に係る労力を踏まえ、適切な評価を検討してはどうか」ということが提案されました。

【その他、出された意見】

■ 療養介護福祉士 (仮称) について

○鈴木老人保健課長「療養介護福祉士は、介護ビジョン会議において提案した。高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるために、経管、喀痰ができる資格。会議では唐突であるなど反対意見、賛成意見が分かれ、引き続き検討していった」

○田中雅子委員 (日本介護福祉士会名誉会長)「療養介護福祉士について、協会としては介護福祉士があるていどの医療行為ができるようにすることが必要であると考えている」

○川合秀治委員 (全国老人保健施設協会会長)「突然出てきた。介護福祉士ができないとかではなく、介護医療士として社会資源の有効活用をしてはどうか。モチベーションも上がる」

■ その他

○勝田登志子委員 (認知症の人と家族の会副代表理事)「要介護認定モデル事業は、認知症の評価が出ずらくなっている」

○井部俊子委員 (日本看護協会副会長)「訪問看護師が軽症から中等度の要介護 (支援) 者を対象に、在宅療養継続のための支援を適切に提供することにより、不要な救急搬送や入院を回避する新たな仕組みを導入し、報酬上評価することを提案する」

○川合秀治委員 (全国老人保健施設協会会長)「政府が決めたと良く言うが、政府とはどこなのか。厚労省は政府ではないのか」

○森田参考人 (代理・兵庫県国民健康保険団体連合会)「地域包括支援センターでは予防が増えると、不採算が増える。担当27件の引き上げと、1件4,000円の報酬引き上げが必要」

○小島茂委員 (日本労働組合総連合会総合政策局長)「地域包括支援センターで、予防プランの4,000円の妥当性を相談業務、権利擁護なども含めて検証が必要」

「介護の日」全国一斉行動で、介護の現状をアピール！（徳島）

11月11日は、「介護の日」全国一斉統一行動日です。徳島県民医連では、徳島駅で介護制度やその実態等を知ってもらおうと、「介護ビラ」宣伝行動を行いました。

介護関係の職員が多く参加し、各職場や社保平和委員等で約20名参加しました。午前7:30～8:00まで介護ビラを350枚配布しました。STOP医療・介護崩壊！10・19中央集会で使った「横断幕」も活用して、県民のみなさんにアピールしました。中には「介護保険を利用したくても、利用料の1割負担が払えないので、今は控えている」という方もいました。参加した職員のみなさんお疲れ様でした。（2008年11月19日 徳島県民医連事務局より）



11月11日「介護の日」は各ブロックごとで取り組み！（滋賀）



【こびらい】では、介護職員5名、事務3名の合計8名が参加。草津駅西口の定位置で夕方に宣伝署名行動を実施。この日にマイクデビューの介護職員も元気に訴えました。

【ぜぜ】きよーええ前で11:30～13:00に署名集めを行いました。ちょうど野菜市をしていて、たくさんの人通りがあり、ほとんどの方が署名をしてくださいました。12時を過ぎてからは人通り

が減りましたが、その分対話もでき、他事業所で働くヘルパーさんからも、激励の声と共に、署名して頂けました。延べ参加者16名。署名75筆。

【坂本】アルセ前で宣伝・署名行動を行い、日和から9名、コスモスから1名、診療所から4名の合計14名が参加しました。1時間で110筆集まりました。3名がマイクを持って訴え反響が大きかったです。

○ 第2回緩和ケア学習会に25名参加

11月15日（土）の午後に、陽だまりホールで山本大津日赤緩和ケア認定看護師を講師に、「在宅で看取りを希望される家族への援助」の学習会を、看護介護委主催で開催し、25名が参加しました。

（滋賀民医連週報 No.95 2008.11.18より）



お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp